

平成29年度行政事業レビューシート ( 厚生労働省 )

事業名	原爆症調査研究委託費（原爆被爆者の臨床情報の保管及び活用に関する研究）			担当部局庁	健康局			作成責任者		
事業開始年度	昭和49年度	事業終了 (予定)年度	終了予定なし	担当課室	総務課指導調査室			総務課指導調査室 小野 清喜		
会計区分	一般会計									
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	-			関係する計画、 通知等	「平成29年度原爆症調査研究委託事業実施要領(原爆被爆者の臨床情報の保管及び活用に関する研究)」					
主要政策・施策	-			主要経費	社会保障					
事業の目的 (目指す姿を簡 潔に。3行程度以 内)	当委託費は、原爆放射能の健康影響に関する調査研究を行うことにより、原爆被爆者の健康の保持・増進及び福祉の向上を図ることを目的とする。									
事業概要 (5行程度以内。 別添可)	平成29年度研究課題 今後の科学技術の発展によって、保管された生物試料を活用して放射線による健康影響の研究を行う際には、原爆被爆者の疾病の罹患状況や治療内容等に関する臨床情報は不可欠である。そのため、原爆被爆者の臨床情報を長期間保管するための体制の在り方等に関する研究を行う。									
実施方法	委託・請負									
予算額・ 執行額 (単位:百万円)			26年度	27年度	28年度	29年度	30年度要求			
	予算 の 状 況	当初予算	9	9	9	10	10			
		補正予算	-	-	-	-	-			
		前年度から繰越し	-	-	-	-	-			
		翌年度へ繰越し	-	-	-	-	-			
		予備費等	-	-	-	-	-			
	計		9	9	9	10	10			
	執行額		9	9	9	-				
執行率 (%)		100%	100%	100%	-					
当初予算+補正予算に対す る執行額の割合 (%)		100%	100%	100%	-					
平成29・30年度 予算内訳 (単位:百万円)	歳出予算目	29年度当初予算	30年度要求	主な増減理由						
	原爆症調査研究等委託費	10	10	-						
	計	10	10							
成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	26年度	27年度	28年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 毎 年度	
	原爆放射能後障害に関す る調査研究を行い、報告書 をまとめることを目標とす る。	報告書数	成果実績	人	2	2	2	-	-	
			目標値	人	2	2	2	-	2	
			達成度	%	100	100	100	-	-	
根拠として用いた 統計・データ名 (出典)	指導調査室調べ									
活動指標及び 活動実績 (アウトプット)	活動指標				単位	26年度	27年度	28年度	29年度 活動見込	30年度 活動見込
	委託件数	活動実績	件	1	1	1	1	1		
		当初見込み	件	1	1	1	1	1		
単位当たり コスト	算出根拠				単位	26年度	27年度	28年度	29年度活動見込	
	単位当たりコスト = X/Y X:「執行額(百万円)」 Y:「委託件数(件)」			単位当たり コスト	百万円	9	9	9	10	
				計算式	X/Y	9/1	9/1	9/1	10/1	

政策評価、経済・財政再生アクション・プログラムとの関係	政策	I-5 感染症など健康を脅かす疾病を予防・防止するとともに、感染者等に必要な医療等を確保すること											
	施策	I-5-4 原子爆弾被爆者等を援護すること											
	測定指標	定量的指標			単位	26年度	27年度	28年度	中間目標 - 年度	目標年度 - 年度			
				実績値	-	-	-	-	-	-			
				目標値	-	-	-	-	-	-			
		定性的指標	目標		目標年度	施策の進捗状況(目標)							
						-	-						
						-	施策の進捗状況(実績)						
	本事業の成果と上位施策・測定指標との関係												
	広島及び長崎に投下された原子爆弾による被爆者が今なお置かれている健康上、社会上の特別の状態に鑑み、その実態を明らかにし、被爆者の健康の保持及び増進を図る。												
経済・財政再生アクション・プログラム	改革項目	分野:	-										
	(第一階層) KPI	KPI (第一階層)			単位	計画開始時 - 年度	28年度	29年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度			
				成果実績	-	-	-	-	-	-			
				目標値	-	-	-	-	-	-			
			達成度	%	-	-	-	-	-				
	(第二階層) KPI	KPI (第二階層)			単位	計画開始時 - 年度	28年度	29年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度			
				成果実績	-	-	-	-	-	-			
				目標値	-	-	-	-	-	-			
		達成度	%	-	-	-	-	-					
本事業の成果と改革項目・KPIとの関係													
-													

事業所管部局による点検・改善

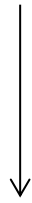
	項目	評価	評価に関する説明
国費投入の必要性	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	原爆被爆者が今なお置かれている健康上、社会上の特別の状態に鑑み、その実態を明らかにするとともに、被爆者の健康の保持・増進及び福祉の向上を図るため、国費を投入しなければ事業目的が達成できない。
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○	原子爆弾被爆者に対する援護に関する法律第40条(※)の規定に基づき、原爆放射能影響調査研究の推進に資する事業であり、国が実施すべき事業である。 ※第40条第1項「国は、原子爆弾の放射能に起因する身体的影響及びこれによる疾病の治療に係る調査研究(次項において「原爆放射能影響調査研究」という。)の推進に努めなければならない。」
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。	○	原爆放射能の健康影響に関する調査研究を行うものであり、今なお健康上、社会上の特別の状態におかれている原爆被爆者の健康の保持・増進及び福祉の向上を図るといふ政策目的達成に向けて、優先度の高い事業である。
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	△	本事業を効果的に実施するためには、症例研究の実績、研究テーマについての高度な専門的知識、人材、放射線の研究を専門的に行える環境等、必要とする体制を有している者が実施する必要があるが、上記条件を満たす者が一者のみ若しくは複数存在するかを確認するため公募を行っている。
	一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。	無	
	競争性のない随意契約となったものはないか。	無	
	受益者との負担関係は妥当であるか。	-	-
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。	○	事業に要する経費について精査を行っており、妥当である。
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	-	-
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○	経費の使途については、調査研究の円滑な実施に真に必要なものに限定している。
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-	-
繰越額が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-	-	
その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。	-	-	

事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。	○	成果実績は成果目標に見合ったものとなり、適切に実施されている。			
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	-	-			
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	○	公募を経て事業者を1者選定し、事業を実施した。			
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	○	被爆者援護施策の実施にあたり、当該研究成果が活用されている。			
関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)	○	原爆症調査研究委託費(原爆被爆者の生物試料の保管及び活用に関する研究)が、原爆被爆者の生物試料の保管及び活用に関する調査研究を行うことに対し、当事業は原爆被爆者の臨床情報の保管及び活用に関する研究を行うものである。			
	所管府省名	事業番号		事業名		
	厚生労働省	0175		原爆症調査研究委託費(原爆被爆者の生物試料の保管及び活用に関する研究)		
点検・改善結果	点検結果	平成28年度は、当初の予定どおり1件の調査研究について委託実施し、原爆放射能の影響により被爆者がどのような疾病に罹患し、どのような症状が発生するかなど重要なテーマについて研究を行った。例年、執行率は100%であり、原爆被爆者が今なお置かれている健康上、社会上的特別の状態に鑑み、その実態を明らかにするためのものとして今後も必要な研究である。29年度においては、原爆被爆者の臨床情報を収集し、長期間保管するための体制の在り方について研究を行うが、研究内容に応じて精査しつつ適正に予算要求を行った結果、前年度より約1百万円の増額となった。				
	改善の方向性	各項目の点検の結果、本事業は妥当であり、平成29年度も引き続き調査研究を行う。				
<b>外部有識者の所見</b>						
点検対象外						
<b>行政事業レビュー推進チームの所見</b>						
現状通り	原爆放射能の健康影響に関する調査研究を行うことにより、原爆被爆者の健康の保持・増進及び福祉の向上を図るために必要な経費であり、引き続き、必要な予算額を確保し、適正な執行に努めること。					
<b>所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況</b>						
現状通り	-					
<b>備考</b>						
-						
<b>関連する過去のレビューシートの事業番号</b>						
平成22年度	155	平成23年度	155	平成24年度	127	
平成25年度	152	平成26年度	164	平成27年度	173	
平成28年度	173					

※平成28年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

厚生労働省  
9百万円

委託先の決定。契約書、  
実施要領の作成。事業計  
画書等の審査、承認。委  
託費の支払い。



【随意契約(公募)】

A. 日本赤十字社  
9百万円

契約書、実施要領、事業  
計画書等に従い事業を  
実施。事業完了後事業  
実績報告書を提出。

資金の流れ  
(資金の受け取  
り先が何を行っ  
ているかについ  
て補足する)  
(単位:百万円)



